

日本人口学会第 75 回大会のお知らせ

2023 年 2 月 22 日
日本人口学会第 75 回大会
大会運営委員長 水落正明
大会企画委員長 中澤 港

日本人口学会は、第 75 回大会を 2023 年 6 月 10 日(土)、6 月 11 日(日)の 2 日間、南山大学において開催いたします。会員の皆様はもちろん、人口にご関心のある研究者や学生の非会員の皆様にも積極的にご参加いただければ幸いです。

大会では、下記の通り特別座談会と5つの企画セッション、大会前日の特別セッションを設定している他、自由論題報告を会員の皆様から公募しますので、奮ってご応募ください。なお、会員総会は 6 月 10 日(土)を予定しております。

セッションタイプ	セッションタイトル	組織者	使用言語	備考
特別座談会	日本人口学会の来し方行く末 (75 周年記念)	稲葉 寿(東京大学)	Japanese	
企画セッション 1	新型コロナウイルス感染症パンデミックに伴う死亡の分析	西浦 博(京都大学)	Japanese	
企画セッション 2	長期的視点からみた日本の結婚行動 の変化:多相生命表アプローチ	津谷典子(慶應義塾大学)	Japanese	
企画セッション 3	感染症と人口動態の数理	大泉 嶺(国立社会保障・ 人口問題研究所)	Japanese	
企画セッション 4	地域人口の研究手法:現代、歴史、地 域の接点	清水昌人(国立社会保障・ 人口問題研究所)	Japanese	
企画セッション 5	AI 等テクノロジーの進展と無償労働 の未来:日英比較	永瀬伸子(お茶の水女子大 学大学院)	Japanese	
特別セッション	第 7 回「地方行政のための GIS チュー トリアルセミナー」	井上 孝(青山学院大学) 小池司郎(国立社会保障・ 人口問題研究所)	Japanese	
自由論題報告			Japanese /English	公募

* 詳細は 3 ページ以降

【出欠の登録ならびに報告の応募】

報告の申込みの受け付けや大会への出欠に関する登録用 Web サイトは現在準備中です。準備ができ次第、学会メーリングリストを通じて改めてお知らせしますので、予めご検討ください。なお、大会へは非会員でも参加可能ですが、テーマセッションや自由論題での報告には日本人口学会の会員資格が必要です。また、シンポジウムと企画セッションの報告は公募ではありません。

【報告要旨の Web へのアップロード】

実効性のある報告内容の情報提供を図るため、要旨等の報告内容の情報はすべて学会メーリングリストやホームページを通じて閲覧ならびにダウンロードできるよう準備しております。報告要旨集の紙媒体による印刷・製本物の配布はいたしません。

【会場】

南山大学(〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18)

会場の地図ならびに交通アクセスは下記リンク先をご参照ください。

<https://www.nanzan-u.ac.jp/CMAP/nagoya/campus-nago.html>

<https://www.nanzan-u.ac.jp/Information/access.html>

参加費等のご案内は、開催校より改めてお知らせいたします。なお、現時点では対面、オンライン双方の可能性の下、準備を進めています。大会が近くなり、状況が固まり次第、最終的な決定をします。

【大会関連のお問い合わせ先】

大会企画委員会(企画内容、報告登録など)

大会企画委員会・運営委員会 ML [paoj2023\[atmark\]paoj.org](mailto:paoj2023[atmark]paoj.org)

開催校(会場関係、報告設備、参加費支払など)

大会企画委員会・運営委員会 ML [paoj2023\[atmark\]paoj.org](mailto:paoj2023[atmark]paoj.org)

学会事務局(会員資格や入会手続き等について)

日本人口学会事務局(学会支援機構内)[paoj\[atmark\]asas-mail.jp](mailto:paoj[atmark]asas-mail.jp)

<特別座談会> *Special Round Table*

日本人口学会の来し方行く末(75周年記念)

組織者・司会

稲葉 寿 (2022-2023 年度会長、東京大学)

座談会参加者

小島 宏 (2020-2021 年度会長、早稲田大学)

津谷典子 (2018-2019 年度会長、慶應義塾大学)

金子隆一 (2016-2017 年度会長、明治大学)

原 俊彦 (2014-2015 年度会長、札幌市立大学)

安蔵伸治 (2012-2013 年度会長、明治大学)

日本人口学会 75 周年を迎えることを契機に、近年の会長経験者が、ざっくばらんに日本人口学会の来し方行く末を話し合うという企画です。

プレナリーではありませんが、多くの方々のご来聴を期待します。

<企画セッション1> Panel Session 1

新型コロナウイルス感染症パンデミックに伴う死亡の分析

組織者：西浦博(京都大学)

主旨：新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行開始後 3 年が経過し、パンデミックによる人口レベルの死亡負荷の評価が進んでいる。これまでの超過死亡の推定に関する技術論としての考え方・進展や死因別の超過死亡の状況、国籍別などの異質性に関する分析は未だ広く人口学会員の間でも共有されていない。また、予防接種が進展したオミクロン株(B.1.1.529)の流行開始後、国内の流行が比較的規模の大きなものになったが、死亡インパクトが以前に増して大きな傾向があり(2022 年下半期時点)、また、それによって平均余命の短縮が危惧される。本企画セッションでは、これまでの死亡に係る疫学研究・人口学研究の報告を集中的に行って討議し、既知になりつつある科学的事実を共有するとともに解決していない問題点や技術的課題について検討を行う。

依頼講演者案

鈴木基 国立感染症研究所 わが国における COVID-19 の超過死亡の状況

野村周平 慶應義塾大学 COVID-19 の超過死亡に関する推定問題と死因別・国籍別の死亡リスクの分析

岡田雄大、Mst. Sirajum Munira 京都大学 COVID-19 による寿命短縮の影響推定の試み

西浦博 京都大学 死亡者のいる家庭のインタビューを通じたオミクロン株流行中の死亡分析

米岡大輔 国立感染症研究所 超過死亡の多時系列因果推論

<企画セッション2> Panel Session 2

長期的視点からみた日本の結婚行動の変化:多相生命表アプローチ

本セッションは、近世(18~19世紀)と現代(1975~2020年)そして将来(2020年以降)について、男女の結婚の多相生命表を構築し、それらを比較分析することにより、長期的視点から日本の結婚行動の変化について探ることを目的とする。(セッション所要時間は2時間を予定)

組織者: 津谷典子(慶應義塾大学)

座長: 黒須里美(麗澤大学)

討論者: 2名を予定(交渉中)

報告タイトルと報告者:

- ①「結婚の多相生命表:基礎的概念と手法」 石井 太(慶應義塾大学)
- ②「多相生命表からみた現代の結婚行動」 別府志海(IPPS)・石井 太・余田翔平(IPPS)・岩澤美帆(IPPS)・堀口 侑(慶應義塾大学)
- ③「多相生命表からみた近世東北農村の結婚行動」 津谷典子・黒須里美・石井 太
- ④「多相生命表を用いた配偶関係別将来推計人口」 石井 太・別府志海・余田翔平・岩澤美帆・堀口 侑

<企画セッション3> Panel Session 3

感染症と人口動態の数理

必要時間:3 時間

組織者:大泉 嶺(国立社会保障・人口問題研究所)

座長:大泉 嶺(国立社会保障・人口問題研究所)

報告者:

今 隆介(宮崎大学)「一回繁殖型生物の齢構造化人口模型について」(仮)

大泉 嶺(国立社会保障・人口問題研究所)「一般化レスリー行列の理論と日本のデータへの応用」(仮)

江夏 洋一(東京理科大学)「時間遅れ付き感染症の数理モデルとその応用」(仮)

國谷 紀良(神戸大学)「感染症の数理モデルと COVID-19」(仮)

守田 智(静岡大学)「感染症のネットワークモデルと COVID-19」(仮)

討論者:國谷 紀良(神戸大学)

趣意文:

進む少子化と出口の見えないコロナ禍にある日本において、それらが与える人口動態や、感染症の拡散は人々の耳目を集めている。2020年以降、COVID-19と出生率に関する多くの言説と医療現場の声がマスメディアを通じて報じられている。また、こうした報道の中、実効再生産数や基本再生産数など今まで専門家しか使わなかった数理モデルの用語もしばしば飛び交うようになった。一方、企画者の専門である数理生物学においてもCOVID-19に関する数理的研究が学術集会において多くのシンポジウムを立ち上げている。

そこで、本企画セッションでは学術的に感染症と人口動態の接点を探るべく、様々な数理的アプローチを用いて個体群動態と感染症を研究されている研究者達と共に、理論研究の最前線とCOVID-19の現状と今後、人口動態に与える影響などを議論したい。

<企画セッション4> Panel Session 4

地域人口の研究手法：現代、歴史、地域の接点

組織者： 清水昌人（国立社会保障・人口問題研究所）

座長： 坂井博通（埼玉県立大学名誉教授）

討論者： 川口洋（帝塚山大学）、中川雅貴（国立社会保障・人口問題研究所）

趣旨

地域人口の研究においては、近年のデータ整備、分析ツールの開発等にもない、研究方法、分析手法の面で新たな展開が見られるようになった。そこで前回大会では、分析方法についてのセッションを企画し、4人の研究者に各自のテーマの研究動向をまとめてもらった。その結果、限られたテーマについてではあったが、最新の研究方法やその課題、今後の展望について議論することができた。

今回は前回大会に続き、地域人口の複数のテーマについて最近の研究手法の動向を検討する。今のところ、セッションで取り上げるテーマは、1) 小地域別将来人口推計、2) エスニック集団の地域分析、3) 近世の家族、4) 明治大正期の人口移動の4つを予定している。これらのテーマを選んだ目的は、前回の企画（出生、移動、家族・世帯、途上国研究）と合わせて、最近の日本の地域人口学と関連分野の研究をある程度俯瞰しうる構成にすることだが、今回は同時に、現代の地域人口と歴史人口の研究について、両者の関係を「地域の人口研究」の視点から整理することをも意図している。大会当日は、両分野の研究者とともに、様々な「地域の人口現象」の捉え方について議論したい。

発表予定者（五十音順）：

井上希（国立社会保障・人口問題研究所）

鈴木允（横浜国立大学）

中島満大（明治大学）

福本拓（南山大学、非会員）

<企画セッション5> Panel Session 5

AI等テクノロジーの進展と無償労働の未来：日英比較

趣意文：

2000年以降、AIやデジタルテクノロジーは働き方を大きく変える原動力になっている。こうした技術によって労働市場はグローバル化された結果、中間層の賃金の下落と賃金の二極化が起きたとされている。また半分の職業労働がAIに代替されるというFrey and Osborneの見通しは大いに注目を集めた。しかしこうした技術が無償労働をどう変えていくかについての注目はほとんどない。日本では女性の家事育児と仕事の両立負担が重く、男女賃金差が大きいとともに、出生率は下落を続けている。また高齢者のケアニーズは今後ますます増加していくと考えられる。AIやデジタル技術が家庭内生産活動をどのように代替しうるのか、本セッションでは、JST-RISTEX研究助成プロジェクト「AI等テクノロジーと世帯における無償労働の未来：日英比較から（2020年1月～2023年12月）」（代表者：永瀬伸子）における日英共同研究の成果にもとづき、専門家による家事代替技術についての見通し、家事代替技術に対する消費者の利用意向、そして世帯における無償労働時間の将来変化の見通しについて日英からの知見について報告する。また、討論においては、家事労働やケアの現場でAIやロボティックスの研究・実装に取り組んでいる研究者や技術者からコメントをいただき、家事労働の未来について文理双方の視点から議論する。

必要時間：2時間半

組織者：永瀬伸子（お茶の水女子大学大学院）

座長：福田節也（国立社会保障・人口問題研究所）

*以下、報告予定者の名前のみ記載

1. 「趣旨説明」 永瀬伸子（お茶の水女子大学大学院） 10分
2. 「家事代替技術の未来：技術者へのDelphi調査の結果から（仮）」 Vili Lehdonvirta（オックスフォード大学）/Lulu Shi（オックスフォード大学）
20分（ビデオ録画/Zoom報告/来日して口頭報告のいずれかを予定）
3. 「家事代替技術に対する消費者の利用意向：日本の知見（仮）」 永瀬伸子（お茶の水女子大学大学院） 20分
4. 「家事代替技術に対する消費者の利用意向：英国の知見（仮）」 Ekaterina Hertog（オックスフォード大学） 15分（ビデオ録画による報告を予定）
5. 「無償労働の世代間移転についての将来予測（仮）」 松倉力也（日本大学） 20分

討論者（案）：

東京大学准教授 二瓶美里 准教授 生活工学 福祉工学、リハビリテーション工学、生活支援工学

東京大学 大学院新領域創成科学研究科 人間環境学専攻 工学部 機械工学科

株）代表取締役 小沼光代氏 起業家 YEITOを主催 夫婦の家事分担について独創的なプログラムを開発

ディスカッション&フロアーからのQ&A 30-40分

第7回「地方行政のための GIS チュートリアルセミナー」

The 7th GIS Tutorial Seminar for Administrators:

日時:2023年6月9日(金)(大会前日)

場所:開催校と協議のうえ決定

組織者:井上 孝(青山学院大学)・小池司朗(国立社会保障・人口問題研究所)

座長:鎌田健司(国立社会保障・人口問題研究所)

討論者:チュートリアルセミナー形式なので設けない

報告予定者:

鈴木茂允(福井県)・井上 希(国立社会保障・人口問題研究所)

川瀬正樹(広島修道大学)

小西 純(シンフォニカ)

草野邦明(群馬大学)

趣旨:

昨今, GIS(地理情報システム)の急速な普及と人口データの利用環境の向上によって, 市区町村レベルあるいはそれ以下のいわゆる小地域レベルでの人口分析が容易に行えるようになった。これらの人口分析の技法は, 少子・高齢化対策, 過疎対策, 都市計画, 防災, 地域医療・福祉など, 地方行政のさまざまな分野で大いに役立つことが期待できる。しかし, そうしたノウハウを啓蒙する機会が公的機関や一部の地方自治体が主催するセミナー等に限られており, 必ずしも進んでいるとはいえない。一方, 日本人口学会はそうした人口分析の技術を有する専門家が多数所属しており, そうした技法を地方の行政担当者へ伝達することも学会の社会的貢献の一つと考える。本セミナーは, 多数の参加者が集う大会開催時にこうした趣旨を実行に移すべく企画されてきたものであり, 今回は第1回(京都大), 第2回(東京大), 第3回(札幌市立大), 第4回(明治大), 第5回(椋山女学園大学), 第6回(香川大)に続き7回目となる。

過去6回のセミナーでは, 関西地方(第1回), 関東甲信越地方(第2, 4回), 北海道地方(第3回), 東海・北陸地方および静岡・滋賀(第5回), 中国・四国地方(第6回)の全自治体に案内状を送付し, いずれも多数の行政担当者に参加いただいた。その結果, 参加者からこの企画の継続を要望する声が多数寄せられ, たいへん有意義なセミナーとすることができた。今回は, 愛知県で大会を開催するにあたり, 東海・北陸地方および周辺県の全自治体に案内状を送付し参加者を募る予定である。